日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	こどもと環境

科目基礎情報

開設学科	こども学科	コース名	幼稚園教諭・保育士コース	開設期	前期
対象年次	２年次	科目区分	必修	時間数	１５時間
単位数	１単位	授業形態	演習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				

担当教員情報

担当教員	石川素子	実務経験の有無・職種	有・保育士

学習目的

子どもが周囲にある身近な環境と積極的に好奇心や探求心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うために、ふさわしい環境設定について理解することが目的となる。特に生き物に対する知識やその命の大切さを学び、自然環境に触れて興味関心を持つこと、環境について深く考察する経験をすることをねらいとする。今後保育者となり、子どもが自然環境と接する場面に遭遇した時に、自分がどのような役割を果たすべきなのか理解して行動ができるようになることにもつながる。この科目は、保育内容総論、保育実習指導の授業にも関連する。

到達目標

自然環境と親しみ、触れ合い、さまざまな自然現象に興味・関心を持つこと。自然環境の中で、観察する、発見する、工夫する、危険を回避する能力を身につけること。環境にかかわりながら遊ぶ子どもたちの育ちを支える保育者の役割を知ること。学生自身が自然など身近な環境、素材（教材）に触れ遊ぶことによって、環境構成の大切さを知ること。観察、スケッチを通して身近な公園、園庭、校庭に植えられている植物について形と名前が一致させることができるようにする。

教育方法等

授業概要	映像や事例を通して、個人ワークやグループワークをとりいれる。また、「野外に出て、自然を感じる、土に触れる」方針で演習を進める。生き物の大切さ、管理の重要性について、フィールドワークを通して体験的に学ぶ。そのため、野外で活動できる服装や運動靴で参加できるようにする。また、子どもにとって大切な遊び場である公園について取り上げ、各事例について報告、ディスカッションを行う。
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。保育者の役割の一つに”子どもの模範となる”ことがあることから、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価方法	種別	割合	備　考
	試験・課題	20%	試験と課題を総合的に評価する
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	成果発表（口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

授業計画（１回～8回）

回	授業内容	各回の到達目標
１回	幼児教育の基本	幼児教育の基本を支えることを理解する
２回	領域環境のねらい	領域「環境」のねらいや内容を理解する
３回	発達と環境	子どもの発達を進める力について理解する
４回	環境の構成	園の環境が子どもにとってもつ意味について理解する
５回	保育者の役割	保育者の3つの役割について理解し、説明する
６回	指導計画の作成	計画の意義について理解し、計画を作成する
７回	園内環境	園の環境を規定する枠組みについて理解する
８回	いのちを大切にする保育	「いのち」を大切にする保育活動の実際を理解する

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	こどもと環境

科目基礎情報

開設学科	こども学科	コース名	保育士コース	開設期	前期
対象年次	２年次	科目区分	必修	時間数	１５時間
単位数	１単位	授業形態	演習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				

担当教員情報

担当教員	石川素子	実務経験の有無・職種	有・保育士

学習目的

子どもが周囲にある身近な環境と積極的に好奇心や探求心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うために、ふさわしい環境設定について理解することが目的となる。特に生き物に対する知識やその命の大切さを学び、自然環境に触れて興味関心を持つこと、環境について深く考察する経験をすることをねらいとする。今後保育者となり、子どもが自然環境と接する場面に遭遇した時に、自分がどのような役割を果たすべきなのか理解して行動ができるようになることにもつながる。この科目は、保育内容総論、保育実習指導の授業にも関連する。

到達目標

自然環境と親しみ、触れ合い、さまざまな自然現象に興味・関心を持つこと。自然環境の中で、観察する、発見する、工夫する、危険を回避する能力を身につけること。環境にかかわりながら遊ぶ子どもたちの育ちを支える保育者の役割を知ること。学生自身が自然など身近な環境、素材（教材）に触れ遊ぶことによって、環境構成の大切さを知ること。観察、スケッチを通して身近な公園、園庭、校庭に植えられている植物について形と名前が一致させることができるようにする。

教育方法等

授業概要	映像や事例を通して、個人ワークやグループワークをとりいれる。また、「野外に出て、自然を感じる、土に触れる」方針で演習を進める。生き物の大切さ、管理の重要性について、フィールドワークを通して体験的に学ぶ。そのため、野外で活動できる服装や運動靴で参加できるようにする。また、子どもにとって大切な遊び場である公園について取り上げ、各事例について報告、ディスカッションを行う。
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。保育者の役割の一つに”子どもの模範となる”ことがあることから、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価方法	種別	割合	備　考
	試験・課題	20%	試験と課題を総合的に評価する
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	成果発表（口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

授業計画（１回～8回）

回	授業内容	各回の到達目標
１回	幼児教育の基本	幼児教育の基本を支えることを理解する
２回	領域環境のねらい	領域「環境」のねらいや内容を理解する
３回	発達と環境	子どもの発達を進める力について理解する
４回	環境の構成	園の環境が子どもにとってもつ意味について理解する
５回	保育者の役割	保育者の3つの役割について理解し、説明する
６回	指導計画の作成	計画の意義について理解し、計画を作成する
７回	園内環境	園の環境を規定する枠組みについて理解する
８回	いのちを大切にする保育	「いのち」を大切にする保育活動の実際を理解する